

1 中央アジアのイスラーム王朝

・中央アジアでも、アッバース朝の衰退によって多くのイスラーム王朝が独立した。
→その王朝が領土を拡大させると、結果的にイスラーム世界は拡大していった。

☆ () (875~999 年)

都… () ※現在のウズベキスタンにある

- ・イラン系イスラーム王朝で、アッバース朝から事実上独立し、中央アジアからアフガニスタンにかけての地域を支配した。
- ・ () と呼ばれるトルコ系奴隷軍人を西アジアに供給した。

☆ () (940 年ころ~1132 年ころ)

- ・10 世紀に成立した最初のトルコ系イスラーム王朝で、中央アジアのトルコ人が多く住む地域 (トルキスタン) を支配し、トルコ人のイスラーム化が大いに進んだ。
- ・1132 年、東方から来た () に滅ぼされた。



ブハラ

古代より栄えた中央アジアのオアシス都市。青い建築物が美しい。写真は 12 世紀に建てられたカラーン=ミナレット。マムルークは、このブハラからアラブ世界に送られた。



イブン=シーナー

この時代のビッグネームである。サーマーン朝に仕えたイラン人医学者で、ヨーロッパでもアヴィケンナの名で知られた。



耶律大石

耶律という苗字でわかるとおり、遼の王族である。遼が金に滅ぼされた際、西に移動して、カラ=キタイ(西遼)を建てた。

2 アフガニスタン・インドのイスラーム王朝

・10 世紀以降、一部のイスラーム王朝がインドへの侵入を行った。
→イスラーム神秘主義者 () の活動や、ヒンドゥー教のバクティ運動や聖者崇拜との結びつきもあり、徐々にイスラーム教が浸透していった。

☆ () (977~1187 年)

- ・10 世紀、アフガニстанを拠点に、サーマーン朝から独立したイスラーム王朝。
→第 3 代マフムードの時代に、ラージプート時代のインドへ侵入を繰り返した。

☆ () (1148 年ころ~1215 年)

- ・12 世紀、アフガニスタンを拠点に建国された、自称イラン系のイスラーム王朝。
- ・やはりインドへの侵入を繰り返し、インドのイスラーム化が進んだ。





アイバク

正確には、クッブデ
イン=アイバクという。

- ☆ () (1206~1290年)
- 都… () ※現在もインドの首都
- ◆ () (在位 1206~1210年)
- ・ゴール朝の将軍アイバクが、インド最初のイスラーム王朝を建国した。
- ・ () というインド最古のモスクの塔を建設した。
- ・以後5つの王朝がデリーを都に建国され、 () という。

<インドのイスラーム王朝>

- ・1526年、ロディー朝は、パーニーパットの戦いで () に敗れた。
→勝利したバーブルは () を建国し、インドを支配した。

3 モンゴル人の侵入

・13世紀、広大な領土を支配するモンゴル帝国は、イスラーム世界にも侵入し、さらに新たな国を建国していった。

- ☆ () (チャガタイ=ウルス) (1227~1321年分裂)
- ◆チャガタイ (在位 1227~1242年)
- ・チャガタイ=ハン国を建国して中央アジアを支配したが、東西に分裂した。
→1370年、西チャガタイ=ハン国から、 () が独立して大帝国を築いた。

☆ () (フレグ=ウルス) (1258~1353年)

都…タブリーズ

- ◆ () (在位 1258~1265年)
- ・1258年、バグダードを征服して () を滅ぼした。
→イル=ハン国を建国し、イランとイラク地域を支配した。



フレグ
チンギス=ハンの孫
で、クビライの弟で
ある。

- ◆ () (在位 1295~1304年)
- ・イスラーム教に改宗して国教とし、イラン=イスラーム文化が栄えた。
- ・宰相 () の補佐により、最盛期をむかえた。
→宰相が書いた歴史書の『]は、モンゴル史の貴重な史料とされている。

